

## ～訓練紹介～ <ボッチャ訓練>について

### <ボッチャとは>

ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつボールを投げたり転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

### <訓練について>

障害者支援施設<にじ>では、生き甲斐を持って生活して頂くために、障がい者スポーツの提供、地域の大会への出場支援などを行っています。その中でもボッチャは老若男女、障がいの種別にかかわらず、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツのため、訓練として導入しています。

### <最後に>

病気を機に体を動かすことから遠ざかっている方も多いかと思います。

今回紹介させて頂いたボッチャ以外にも、<にじ>では様々な障者スポーツを提供しています。体を動かすことは、心身の健康維持に繋がりますのでこれを機に始めてみてはいかがでしょうか？

参考文献：一般社団法人 日本ボッチャ協会 HP



ジャックボールに一番近いボールの色と逆の色のチームが投げます。



<にじ>のサービスのひとつである「就労移行支援」のメンバーがジャッジをしてくれます。



## 障害年金の申請を行いました！✿

病気やケガで障害が残った場合、障害年金の申請ができる場合があります。

詳しくは年金事務所に相談することになりますが、申請するにはいくつか書類の準備が必要でその中にはご家族やご本人が作成するものもあります。今回、脳出血で左手足の麻痺が残った A さんをご自身で障害年金を申請した様子をお伝えします。

①



別府年金事務所に相談に行きました。スロープもあり杖歩行の方や車椅子の方でも来所可能です。

②



救急車で運ばれてから、治療、リハビリ、そして「にじ」で訓練をしている現在までの経過をまとめています。訓練の合間をぬって一週間かけて作成しました。

③



病気になってすぐの頃は「死にたいと思いリハビリにも集中できなかった」と話す A さん。1年半たって気持ちも落ち着き振り返ることができました。

その他の書類をそろえ、無事に再び年金事務所に申請に行くことができました。

「ホッとした。書類をまとめるのが大変だったので…」と安心した表情の A さん。病気になってからを振り返る作業は、気持ちの面でも大変だったと思います。今は一人で外出が出来るようになって焼き立てのパンを買いに行くことが目標です！と笑顔を見せてくれました。



# 就労移行支援 0B のお話

## ～仲間がいたから～



ダンブ運転手として勤めていた 40 代の B さん。今から 6 年前に脳梗塞で倒れ右手足の麻痺が残りました。主治医からは「右手は諦めた方がいい…」と言われましたが「ふざけんな！仕事に戻るんや！！」とリハビリに懸命に取り組みました。

装具をつけ、すぐに歩き始めましたが、右手のリハビリが思うようにいかず苦勞されました。そんな矢先に病院の相談員から「この先どうしたい？」と尋ねられ当施設を紹介され、見学することに。「似た症状の方が多くいるここならやれる」と入所を決めたそうです。入所すると、麻痺がある方が麻雀する様子を見て「片手でやってる、すげー！俺もできるかな？」と好きなことをきっかけに打ちとけていきました。

「片手なのでスピードは遅いけど自分で出来ることが増えて嬉しかった」と語る B さん。麻雀仲間とは今でも連絡を取り合っています。



終始穏やかな口調と笑顔で語ってくださる B さん

入所者どうして“自分にはどんな仕事ができそうか”など退所後のことを話すことも多かったです。メンバーの一人にパソコン検定を受ける方がいて、ご自身も頑張りましたが「一人では資格をとるまで頑張れなかったと思う」と当時の事を思い出されていました。

就職活動をする中で、当センターでの事務補助として採用が決定。パソコン入力、台車を使用した運搬作業、部署間のメッセージ業務を行っています。「職場は話しやすい雰囲気、頼れる上司のもと安心して仕事ができている」と話す B さん。就職する前に「実際に自分がどんなことができるか知ることが大切、できないことでも“どうやったらできるか”を考えてきた」と話されています。

### 業務中の B さんの様子



左より：運搬作業、メッセージ業務、事務作業を行う B さん

入所中、いつもにこやかに過ごされていた B さんですが、障害をもっているいろいろな思いを巡らせる日々もあったと思います。同じ障害をもつ“仲間”の存在の大切さを語っていただきました。

